

伊勢原市内石造物探訪（高部屋地区・その2） ～日向薬師バス停から浄発願寺奥の院入口までを歩く～

去年は、「幡蔵寺（西富岡）」から「日向薬師バス停」までの道を歩きましたが、今回は、「日向神社（白髭神社）」から「浄発願寺奥院・入口」までの道を歩きます。コースには、歴史ある神社やお寺があり、境内には由緒ある石造物（石で出来た石仏や石塔のようなもの）が多数安置されています。

紅葉のはじまり（11月7日：立冬）を感じながら、ゆっくりと歩きましょう。

記

※今回の「市内石造物探訪」については、本チラシ裏面に掲載の「新型コロナウイルスの感染拡大防止のための活動制限について」により、事業を進めています。

皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いします。

【日 時】 2020年11月7日（土）午前10時集合

雨天中止 歩きやすい服装、靴

【集合場所】 日向薬師バス停



※今回は「新型コロナウイルスの感染防止」の観点から現地集合としました。

伊勢原駅北口・3番乗り場からバス利用は、以下の2本があります。

①午前9時05分発 日向薬師行乗車 終点下車 午前9時24分着

②午前9時30分発 日向薬師行乗車 終点下車 午前9時49分着

【参加費】 無料、交通費は各自負担

【昼 食】 弁当：各自持参、昼食場所：石雲寺境内

【見学場所】

別紙の「市内石造物探訪 高部屋地区その2（日向地区）」を参照ください。

☞石造物の解説は、歴史解説アドバイザーが当日配布の会報により担当します。

【定 員】 30人（先着順・事前申込み要）

【申込み期間】 10月1日（木）～11月4日（水）

【申込み先】 伊勢原市文化財協会 事務局 陶山^{すやま} ☎0463-93-0964（午後6時以降）

【主 催】 伊勢原歴史文化遺産活用実行委員会

【主 管】 伊勢原市文化財協会

【後 援】 伊勢原市教育委員会

新型コロナウイルスの感染拡大防止のための活動制限について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、感染のリスクとなる3つの条件(①換気の悪い「密閉空間」②多数の人が集まる「密集場所」③間近で会話や発声「密接場面」)に加え、ウイルス付着部分への接触などもハイリスクになり得ると言われていることから、以下の内容について順守していただきますよう、参加者の皆様へご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) お出かけ前の健康チェックについて

☐ お出かけの前に、ご自宅で検温していただきますようお願いいたします。

☐ 体温が37.5℃以上ある(または平熱比1度超過)、息苦しさ・強いだるさや、軽度であっても咳・咽頭痛など、体調に不安がある場合は、行事への参加をお控えください。

☐ 飛沫分散防止のため、マスクの着用をお願いいたします。

(2) 行事参加にあたっての留意点について

☐ 手洗いの徹底・マスクの着用

ウイルスに感染する原因の一つとして、手からの感染があげられます。そのため、ウイルスが付しやすい手を洗うことが感染症予防対策に効果的です。

また、マスクは飛まつによる感染の予防に効果があります。

☐ ソーシャルディスタンス(社会的距離)の確保

2メートル程度(互いに手を伸ばして届く距離)の距離をとるようにしましょう。

☐ 3つの「密」を避けて行動しましょう。

冒頭にあげた感染のリスクとなる3つの条件を避けるよう行動しましょう。

(3) 当日の参加者名簿の作成について

☐ 感染症拡大防止対策として、万が一感染者が発生した時には、保健所等の公的機関へすみやかに提供する場合があることから、当日参加した方の名簿を作成させていただきますので、ご承知ください。

市内石造物探訪 高部屋地区その2(日向地区)

No.	場 所	名 称	紀 年 銘	備 考
1	日向神社 (白髯明神)	手水鉢	天保3年(1832)	信州の石工が作った。
		御神燈	文政5年(1822)	煤ヶ谷村の人が建てた。
		庚申塔	嘉永7年(1854)	自然石
		道標	寛保2年(1742)	右 やくしみち 左 一之沢 大山 みち
2	浄発願寺	記念碑	昭和40年(1965)	
		弾誓上人像	-	本堂内に安置
		歌川国経供養塔	文化7年(1810)	国経の三回忌の時に建てられたもので、以前は浄発願寺奥の院の参道脇にあった。 歌川国経は子易明神の美人図絵馬(県重文)を描いた人。
		延命子安地藏尊	宝暦5年(1755)	本体は金仏。銘板の記念銘は平成3年(1991)。
3	大友皇子墓	大友皇子墓	-	もとの層塔は石雲寺境内に遷座。今はレプリカがある。
		大友皇子墓	-	14世紀後半(南北朝時代)のもの。市内最古の石造物。 令和2年(2020)石雲寺境内に遷座された。 同年5月10日に開眼供養が行われた。
		高遠石工の墓	-	宝永5年(1708)から明治37年(1904)までの墓石11基。
4	石雲寺	魚鳥獣供養塔	昭和58年(1983)	
		石碑(縁起碑)	平成5年(1993)	石雲寺の履歴を記す。大山寺との雨降石争奪戦など。
		禁制碑	-	
		六道地藏尊	昭和5年(1930)	
		華嚴塔	寛文12年(1672)	
		震火水浸 各霊追弔燈	大正15年(1926)	灯笼である。
5	奥之院入口	念仏石	延享元年(1744)	12世亮台(天阿)上人が念仏修行された石。亮台(天阿)上人は宝暦8年(1758)入滅。
		十億万遍 念仏供養塔	-	25世覚圓孝阿上人が建てる。
		大乘妙典 六十六部供養塔	明和2酉年(1765)	三界万霊有無両縁塔施主が建てる。
		宝篋印塔	昭和5年(1930)	尾州徳川3代目綱誠の正室瑩珠院殿の供養塔。今でも、当初からの経筒(経文と遺髪在中)がこの宝篋印塔に納められている。 大正12年9月の山津波で流失したが、昭和5年再建される。 昭和21年(1946)、鹿狩りに来た駐留軍兵士により爆破され四散したが、再度再建された。
		当山中興18世 善明知限墓	文政5年(1822)	
		惣門敷石供養塔	天保11年(1840)	
		大乘妙典 六十六部供養塔	天明6年(1786)	

参考資料: 木食僧の寺 一之沢浄発願寺 昭和57年3月 伊勢原市文化財報告書第五集